

野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場 設立趣旨

平成30年7月の前線等による記録的な豪雨により、肱川水系の大洲市や西予市で甚大な被害が発生した。肱川水系に位置する野村ダム、鹿野川ダムでは、事前放流により通常の洪水調節容量よりも大きな容量を洪水前に確保するとともに、操作規則に基づき、洪水量を減少させ、ダムが満杯に近づく中でも、流入量を上回る流量とならないような異常洪水時防災操作に移行した。

また、ダムの容量は無限でないため、今回のように降雨量が甚大でかつ長期化するとダムの洪水調節ができなくなってくることから、適切な避難行動につながるよう、関係機関に対して数次にわたり情報提供を行っている。

しかしながら、これまでに経験のない異常な豪雨であったことを踏まえ、地域のさらなる安全・安心の確保のため、より有効な情報提供や住民への周知のあり方について検証を行うとともに、より効果的なダム操作について技術的考察を行うことを目的に、「野村ダム・鹿野川ダムの操作に関わる情報提供等に関する検証等の場」を設置するものである。